

平成19年5月の解説（週間天気予報）

【5月の天候状況】

月半ばまでは、北日本では低気圧が頻繁に通過して曇りや雨の日が多く、そのほかの地方では低気圧と高気圧が交互に通過して天気が数日周期で変化しました。中旬の後半は全国的に低気圧や前線の影響で雨や曇りの日が続きました。下旬はほぼ全国的に低気圧と高気圧が交互に通過して天気が数日周期で変化しましたが、南西諸島では前線や低気圧の影響を受けて曇りや雨の日が多くなりました。

月を通しての日照時間は北日本で平年より少なく、その他の地方では平年より多くなりました。降水量は北日本と東日本の太平洋側で平年より多く、西日本の日本海側と南西諸島では平年より少くなりました。気温は東日本と西日本では高く、北日本と南西諸島では平年並でした。

【5月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より7ポイント高い76%でした。ほぼ全国的に例年より高く、特に北海道、関東甲信、東海、沖縄地方では9から17ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は例年に比べてほとんどの地方で小さくなりました。特に関東甲信地方で0.6、近畿地方で0.5小さく、全国平均では0.3小さい2.6でした。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差も例年に比べてほとんどの地方で小さくなりました。特に東北、北陸、四国地方で0.3小さく、全国平均では例年より0.1小さい1.9でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5月の週間天気予報から】

5月10日から11日にかけて、低気圧が本州を通過して（図1）全国的に雨が降り、関東地方も10日の夕方から夜にかけて広い範囲で雨となりました。

5月3日（7日前）から8日（2日前）までの天気予報では10日の東京地方の天気を「晴れ時々くもり」や「くもり時々晴れ」と雨が降らない予報をし、雨が降る予報に修正したのは9日（前日）朝発表の予報以降でした。

図2は9日21時（24時間前）の資料で予想した10日21時の予想気圧配置です。実際の天気図（図1）と比較すると低気圧と高気圧の配置はほぼ一致しています。一方、図3は7日（3日前）の週間天気予報で使った10日21時の予想気圧配置です。実際の天気図（図1）と比較すると東シナ海や太平洋の高気圧、カムチャッカ半島とバイカル湖の東の低気圧などは予想と一致していますが、関東付近の低気圧は予想していません。

現在の予報技術では、規模の大きい低気圧の動向は、数日前からある程度予想できることが多いのですが、時にはこの例のように前日まで予想できない場合もあります。天気予報の精度は予報対象日に近づくほど良くなりますので、できるだけ新しい予報で確認することをお勧めします。

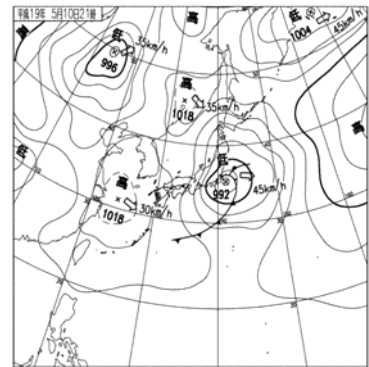


図1 2007年5月10日21時の実況天気図

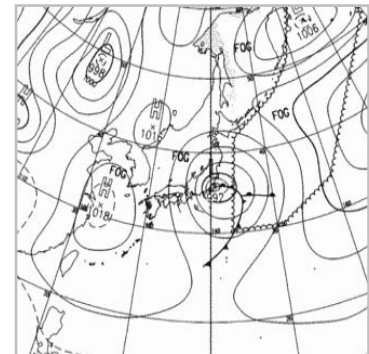


図2 2007年5月10日21時の予想天気図（5月9日21時の資料から10日21時を予想）

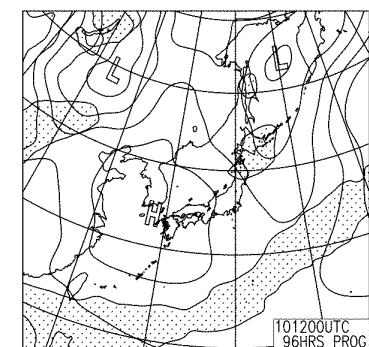


図3 5月7日の天気予報で使った10日21時の予想気圧配置（ハッチは予想降水範囲）

【7月の週間天気予報の利用にあたって】

例年6月から7月にかけて全国各地に大雨や長雨をもたらす梅雨も、7月の中旬から下旬にかけて各地で次々と梅雨明けし、太平洋高気圧に覆われて全国的に晴れて暑い日が続くようになりますが、年によっては梅雨明けが遅れることもあります。7月の後半に低温や日照時間が少ない日が続くと農作物等の成長に悪影響を与え、北・東日本の太平洋側などでは冷害となることもあります。週間天気予報で曇や雨の予報が続く際には、気温の予報にも注意し、早めに冷害等への対策をとることをお勧めします。